

大修館英語通信

What's New!

4

April 2022
No. 3

特集

GIGA1期生を迎える2022年の高校・ 英語授業でのICT活用

英語教育で効果的にICTを活用するために 岩瀬俊介…3

学校におけるICT活用の現在地：

GIGA1期生を高校に迎える2022年を知っておきたいこと 佐藤明彦…6

[月刊『英語教育』記事・一部再録] …8

ICTを活用して授業と学習の好循環を実現させるためには 今田健蔵/ロイノート・スクールを活用した音読・リテリング指導 川畑正樹・中川めぐみ/オンラインお悩み相談会によせられた端末活用Q&A 大修館書店英語教科書のデジタル教材…12

[月刊『英語教育』の新連載・ちょっと読み] 高校授業のNEXT PHASE：授業と指導の「変化」にチャレンジ！ 津久井貴之…16

教室のデジタル化、
本格始動

連載

巻頭エッセイ「わたしの英活」 オザワミカ…2

新 SLA 研究にもとづく英語学習の動機づけのすすめ 廣森友人…14

新 Question Box：英文法の「なぜ」？ 朝尾幸次郎 / Let's Cook! Pho Ga…15

教育ニュース / ホット1コマ あずきみこ…18

大修館 BOOKSHELF 白畑知彦/萩野俊哉/村野井仁…19



上のQRコードから
[大修館書店 英語教科書特設サイト]
にアクセスできます。

わたしの英活

「好きこそ物の上手になるはず」

オザワミカ (イラストレーター)



大学生の息子に「母ちゃんの英語力はひどい」と言われているわたしの英活とは…。とにかく機会があれば外国の方と話してみることはどうか。

わたしはいろいろな人とコミュニケーションを図ることがけっこう好きで、知らない人と話すことはそれほど苦にならない。そんなわたしはお節的な性格が顔に出ているのか、どこへ行っても道を聞かれる機会が多く、それは外国の方も御多分に漏れない。そんなときはいい機会だから関わるとこまで関わらせてもらおうと決めている。

外国の方から渋谷駅で銀座線の乗り場を聞かれる機会が2度ほどあった。

1度目は3～4人くらいの団体で、かろうじて“Ginza Line”と聞き取れ、“Ginza line is orange sign.”と言って、地下に点々とある銀座線の案内板を指し示した。すると彼らはいたく満足そうにオレンジのマークを見上げて笑顔で去って行った。

しかし、彼らを見送ったあと、地上3階に駅があるため地下を出た途端に銀座線のマークは見つけにくいだろうなと心配になった。もっとちゃんと道案内してあげたかったと思ったことなどすっかり忘れていたある日、2度目の機会がやってきた。

“Excuse me?”アジア系の男性であった。来た!!! “Ginza Line”である。以前の後悔があったわたしは、し

ばし悩んだ挙句“OK! Follow me!”と彼を直接案内することにした。それを聞いた彼は“Wow!”と破顔してわたしについて来た。道中、なんか話したほうがいいかな? と思い、“Where are you from?”と聞いてみると“I’m from Taiwan.”と笑顔で答えてくれた。すると、彼の方からもコミュニケーションを図ろうと何やら質問してくれたのだけれど全くわからない。くうう。

困った挙句、“Sorry. I can speak English a little.”を捻り出し、彼は笑顔で“Don’t worry.”と受けてくれたところで当時銀座線の乗り場があった東急百貨店の前に辿り着いた。“3rd floor”と言いながら、またもや銀座線のオレンジのマークを指し示す。“Thank you!”と笑顔で階段を上がっていく彼に“Have a good day!”と笑顔で返したところでわたしの英語交流終了であった…。

これを残念に思ったわたしは15年間ロンドンで暮らしたという知人に「ちゃんと道案内や世間話したい!」と英会話の指導を依頼。“Follow me!”と言って案内したと話す「それは『ついてきな!』だね」と笑われた。台湾の彼がすごく笑っている気がしたのはそのためだったか…。

対面のため、コロナ禍で今、その勉強は中断されているが、またの機会のために備える気はまだある。

外国の方とも話すのが好きなわたしは英語もきっと上手になる!…はず。

Profile

オザワミカ (おざわ みか)

イラストレーター。おもに書籍や雑誌、演劇関連の仕事を手がける。2021年3月に発行された、直木賞作家/桜木紫乃氏の絵本『いつかあなたをわすれても』の作画を担当。翻訳家/金原瑞人氏、三辺律子氏が手がける海外翻訳本の紹介フリーブックレット『BOOKMARK』のイラスト、デザインを担当。本誌の表紙も担当。



英語教育で効果的にICTを活用するために

岩瀬俊介 (いわせ しゅんすけ)

学校法人石川高等学校・石川義塾中学校教諭



高等学校において、生徒が一人一台端末を所有し、あたかも文房具として当たり前を使いこなす時代がすぐそこまで来ている。鉛筆→シャープペンシル、紙の辞書→電子辞書（アプリ）等、これまでも多くの教材や文房具が大きく変化、いや進化してきた。しかし今回の変化は、これまでと同じではない。変化、進化の速度が「指数関数的な速度」と言われるほど速くなっているからだ。また、変化の大きさも、これまでの教育の基本的な考え方にコペルニクス的転回をもたらすと言っていいほどだ。

これらの変化に対応するには、苦しみが伴う。静止摩擦力が動摩擦力よりはるかに大きいように、止まっているものを動かすには大きな力を必要とするからだ。しかし、いったん動き出すと、動摩擦力のように一気に抵抗は小さくなる。

大きな静止摩擦力を突破するためには、次の3つのことが必要だ。

- ① 変化の先には高い効果があるとの期待
- ② わかりやすい具体的な説明に基づく理解
- ③ 困った時に助けてくれる仲間

読者の先生方が一日も早く、動摩擦力のような小さな抵抗のもとでICTを活用できるようになることを願いながら、本稿では、このうちの②を目指して、できる限りかみ砕いてICTの特徴と活用方法についてご紹介したい。

1. ICTの特徴

ICTの特徴は、以下の3つにまとめられるだろう。

- (1) 空間を越えて大量の情報のやり取りができること
 - (2) 大量の情報を蓄積し、それを容易に取り出せること
 - (3) 生徒一人一人の状況を随時、即時的に把握できること
- ではここで、それぞれを具体的にみていこう。

(1) 空間を越えて大量の情報のやり取りができること

新型コロナウイルスによる一斉休校を含め、これまで休校を経験している先生方の多くが、空間的距離感の縮まりを体験しておられるのではないだろうか。おそらくZoomやMi-

crosoft Teams,あるいはGoogle Meetといったツールを使い、距離的には遠く離れている生徒や他校の先生方等と、画面越しにコミュニケーションを取った経験をお持ちだろう。その際、画面に映る動画だけではなく、書類や録画済みの動画など、たくさんのやり取りが一瞬で、あたかも目の前に相手がいるかのように行うことが可能なことは、読者の先生方の多くが経験されていることと思う。

このことを私が最も実感したのは、毎週水曜日の夜に行われている「生徒の気づきと学びを最大化するプロジェクト」という勉強会においてだった。この勉強会を通じて、全国のイノベティブな先生方と知り合い、語り合い、時には参考資料を送り合って、共に学び続けることができていた。これまでだったら知り合うことがなかったような多くの先生方と、毎週のように画面越しでお話をさせていただくことで、空間的な障壁というのがほぼなくなったことを実感している次第だ。

実は、休校中のオンライン授業でも同じだ。

自宅にずっといる生徒たちと、画面越しに授業を行い、話をしていると、まるで教室で会っているのと変わらないほど身近に感じる。むしろ、オンラインだからこそ一人一人の声をはっきりと聞こえ、またいつもと異なる雰囲気を生徒から感じることも多いのだ。

(2) 大量の情報を蓄積し、それを容易に取り出せること

ICTを活用することで大きく変わった2点目は、授業で使用する資料、書類等の作成が効率的になったことだ。他者が作成した書類を一部書き換えて完成する、あるいは前年度に作成したワークシートや指導案を参考にして今年度の授業をつくる等、書類作業の効率が大幅に高まったことがある。

重要なことは、使いまわせるようにデータを整理して保存すること、そして使いまわすことを意識して作成することである。

(3) 生徒一人一人の状況を随時、即時的に把握できること

ICTを活用することにより、先述したオンライン授業同

図1 Kahoot! で出題する並べ替え問題

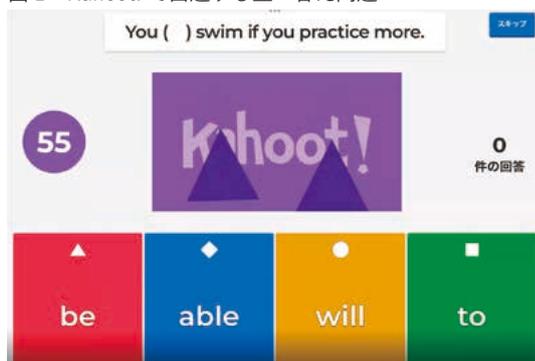
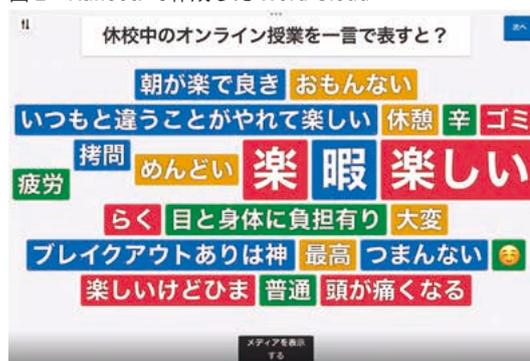


図2 Kahoot! で作成した Word Cloud



様、対面授業においても生徒一人一人の理解度や意見を把握することが容易になっている。

たとえば、Google Forms というアンケートや小テストの機能をもつアプリを使用することで、即時的に生徒の理解度を確認し、自由記述を見ることが可能になっている。また、生徒たちが常日頃考えていることや困ったことなども、ICT を介することで、何気ないメッセージの形で受信することができるようになった。ICT 活用前に、生徒一人一人が数週間に1度交代で書いていた日直日誌を、あたかも全員分を毎日見るかのようなことができるようになってきているのだ。

2. ICT 使用の具体例

次に、具体的に何ができるようになったのか、いくつか実例を紹介しよう。

筆者の勤務校では Google Workspace for Education というツールを使っている。本稿では、これらを使用した実例を紹介するが、例えば Microsoft Teams でも同様のことが実施可能である。

(1) Google Classroom を用いた小テストの得点管理

後述する小テストを行う Google Forms と併用して使うのが Google Classroom である。Google Classroom を経由して小テストを行うことで、生徒の回答が自動的に記録され、複数回の平均点まで計算される。毎回の小テストの転記が苦手な筆者にとって、これは大助かりの機能である。

操作は簡単だ。Google Classroom 内にある「授業」のタグから「テスト付きの課題」を出題するだけである。

Google Classroom には、他にも各課題に対してループリックを示す機能もある。英作文などの課題を提出してもらう際に、生徒自身が改めてループリックを参照しながら意識して課題に取り組むこと、そして提出した課題に対して自己評価を行うことも可能な機能である。

(2) Google Forms を使って即時的に理解度を確認する

筆者は Google Forms の、

① 選択式の小テストとしての機能、と

② 記述式の意見を集約する機能

を活用している。

①の小テストはそのまま、あるいは自分自身で必要なアレンジを加えて使用することが可能だ。また、それを小テストとしてではなく、授業開始時の理解度確認として利用し、正答率の低い問題を中心に授業内で解説をする活用法も可能である。

筆者の経験では、こちらが予想しなかったところで生徒が躓いていることも多い。高校3年の入試が近づいた時期など、限られた時間内で効果の高い授業を行うためには、この Google Forms の即時的な採点機能は非常に有益だろう。

また、生徒一人一人に自由記述させ、集めることに使用することも可能だ。これまでのように前に出てきてもらい、英作文を黒板に書いてもらうのではなく、Google Forms に記入させ、集まった生徒の答案を目で読みながらコメントすることも可能である。

最後に特におススメしたいのが、何も書いていない「ア～エ」だけの選択肢だけが入った空欄の Google Forms の使用だ。先生方には問題文や選択肢まで全てを自ら作成し、打ち込むという大変な労力が必要となる。

筆者は大学入学共通テストの問題演習などの際、選択肢だけ作った簡易的な解答用紙を使用し、生徒一人一人の得点と多くの生徒が間違えた設問を即時的に読み取り、解説の際に参考としていた。

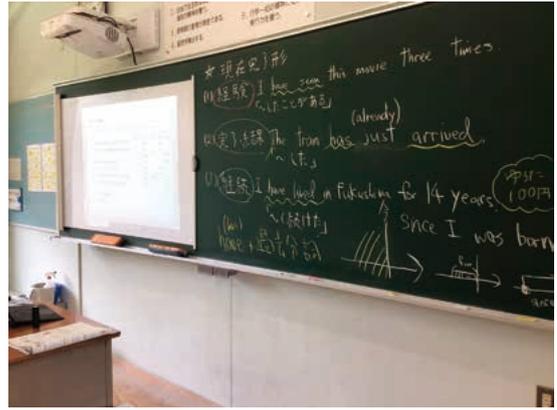
最小限の労力で良い点だけを抽出する、これこそが ICT 活用においては大切なのである。

(3) その他便利なアプリ等の紹介

読者の先生方皆さんが、同僚に教えて「役立った!!」と言っていただけるだろうアプリをいくつか紹介したい。

まず、文章を手打ちで打ち込んでいる先生を今でも時々見かけるが、現在では Google Lens 等のアプリを使用することで、紙の英文を文字データ化することが容易になってい

図3 生徒自身の手で写して覚えてほしい内容は黒板で



る。精度もかなり上がっており、慣れてくると誤りパターン（アルファベットのlと数字の1など）がわかってくるので、これは是非使用をおススメしたい。

また、有名なものとしては **Grammarly** という英文の誤りやより良い表現をおススメするソフトがある。こちらも無料で使用することが可能なため、これまで多くの時間をかけて行っていた生徒の添削などについては、この Grammarly を使用することで時間を短縮することが可能だ。そのためにも、生徒にはテキストデータで提出をしてもらうとよいだろう。

また、最も有名と言っても過言ではない文書作成ソフトである **Word** には、文章読み上げ機能がある。だが、このことは意外に知られていない。若干抑揚はおかしく感じることもあるが、生徒が見本とするには十分な音声である。

最後に、授業内の活動として **Kahoot!** というサービスを使用すると非常に授業が盛り上がるので紹介したい。

このサービスは、無料プランだと○×問題か4択問題しか出題できないが、有料プランにすることで記述式の回答や並べ替え問題なども出題可能になる（図1）。また、さらに有料プランをアップグレードすることで、Word Cloud を作成したり（図2）、生徒等の自由記述→それぞれに対して投票を行うなどの活動も可能である。生徒は一切個人情報を登録せずに参加ができる点も大きなメリットだろう。

3. ICT とアナログの選択

前述の通り、ICT の大きな利点の一つが大量の情報を容易に空間を越えてやり取りできることだ。この際に気をつけたいのが、「大量過ぎる情報」を与えてしまいがちだということだろう。生徒はただ情報を得れば学べるわけではない。むしろ情報がこれだけ満ち溢れた時代だからこそ、提供する情報の厳選も我々教師がサポートすべき事柄なのだ。

筆者は ICT に関して、授業で「使えるなら使おう」というスタンスだが、やはり今でもチョークでの板書を行っている。例えば図3は、中学校3年生に「現在完了形」の復習を

行ったときの黒板の写真である。多くの例題や説明はプロジェクターに提示される画面で行ったものの、これだけは覚えてほしい、この1枚だけは自分の手で写してほしい、という重要な箇所は自らの手で黒板に書くようにしている。

同様なことが、紙で配るか ICT を使用するかの選択の際にも発生する。

筆者のこれまでの経験では、長文や全体を俯瞰してみるためには、紙の方が圧倒的に優れている。したがって、英語の長文などを PDF データにして生徒に配布して解かせることは、個人的には行わないようにしている。

しかしながら、大学入学共通テストの CBT 化が決定した際には、これらも ICT を活用していくことが望ましいだろう。

もっとも解答用紙や生徒の意見など生徒からのアウトプットの面では、圧倒的に ICT に軍配が上がると断言できる。

*

限られた文字数のため、今回は最も大切な考え方と誰もが使った方がよいと思われる具体例に絞って紹介させていただいた。さらに詳しく知りたい方は『英語教育』2021年4月号～2022年3月号の連載「ICTを活用した授業のパラダイムシフト」や『英語教育2021年8月別冊』を読んでいただきたい。また、2022年には ICT に関する単著2冊の出版を予定しているので、そちらも是非ご覧いただきたい。

ICT はやらなければいけないもの、と考えるとこの上なく苦痛な存在になる。言うことを聞いてくれなかったり、突然トラブルを起こしたり、何だかわからない問題を突き付けてくるやっかいな面もある存在だからだ。しかしながら、当たり前のように使用していくと、高い教育効果と大きな業務削減の効果が得られることに気がつく。当たり前のように使い始めて初めて、ICT は友達のような心強い存在になるのだ。

I（いかに）C（ちゃんと）T（使い続けるか）を心にとどめて、これからも続く ICT の発展とそれに伴う変化を皆で楽しめるようになっていきたいと切に思う。

学校におけるICT活用の現在地： GIGA 1期生を高校に迎える2022年に 知っておきたいこと

佐藤明彦（さとう あきひこ）
教育ジャーナリスト



小中学校でのICT活用状況には格差がある

2020年度時点において、日本の学校のICT整備は世界的に見て「致命的」と言ってよいほど遅れていた。PISA2018の補足資料を見ると、日本は授業でデジタル機器を使う時間が、どの教科も軒並み低い。リスニングのある外国語こそOECD平均とそんな色がないが、国語や数学は加盟国中最下位に甘んじている。

そうした状況を一変させたのが、2020年からのコロナ禍であった。3～5月の約3カ月間、全国の大半の学校が臨時休業となり、学校の教育活動はほぼ完全に停止してしまった。そんな中、一部の私学や自治体がオンライン授業を実施し、その取り組みが新聞やテレビ等でクローズアップされた。そして、一部の高校生やその保護者からは、「不公平だ」などの声が上がリ、入試を後ろにずらす話や入学時期を9月にする話なども持ち上がった。

こうした混乱を踏まえ、国は「GIGAスクール構想」の前倒しを決定し、2020年度中に「1人1台」の端末整備を進める方針を示した。そうして同年度末までには大半の自治体が整備を完了し、2021年度からはその活用が始まっている。こうして「周回遅れ」と揶揄された日本の学校のICTは、ハード面だけで言えば、世界トップレベルに躍り出たことになる。

しかし、ハードが整えられたとはいえ、実際にどのくらい使われているかは、地域や学校によって大きく異なる。つくば市や熊本市、奈良市のように多くの学校・教室で使われている自治体もあれば、ほとんど活用されず充電保管庫に眠ったままという自治体・学校もある。こうした「ICT格差」は、市町村間で存在するだけでなく、同じ市町村内の学校間でも存在する。さらに言えば、同じ学校内のクラス間で存在することもある。小中学校については、ほぼ一律にICT環境が整えられたが、活用状況は決して一律ではないことは押さえておく必要がある。

高校に「GIGA 1期生」が入学してくる

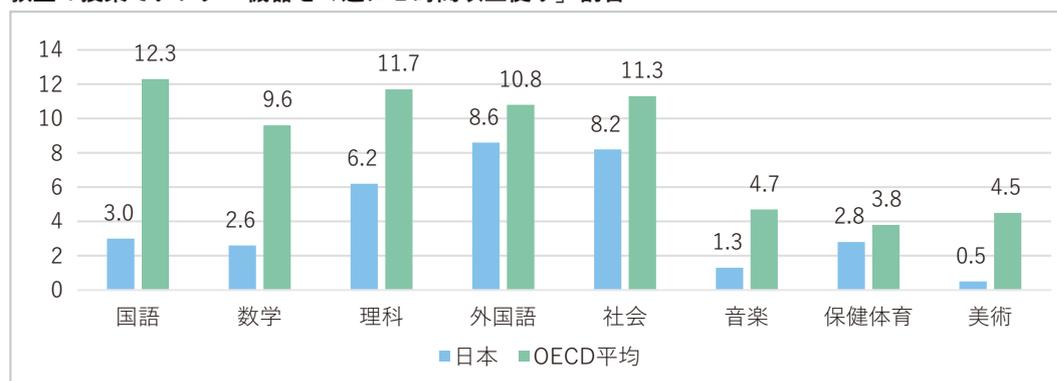
一方、高校は「GIGAスクール構想」の対象外のため、整備状況は都道府県によって異なる。文部科学省がまとめた資料によると、2021年度中に「1人1台」端末が全て整備される見込みの自治体は19と、全体の半分にも満たない。また、整備の仕方もまちまちで、公費負担で配備する自治体もあれば、広島県のようにBYOD（保護者負担）で導入を進めた自治体もある。

小中学校と違い、高校には普通科や専門科、総合学科などがあり、生徒たちの学力や進路も学校間で大きく異なっている。こうした状況も、一律での導入の障壁となっており、ICTに対する教員たちの認識差も小中学校以上に大きい。英語科や理科などはICTの活用に意欲的な教員が多い一方で、端末活用の意義を感じている教員が少ない教科もある。

そんな中、2022年度には全国各地の高校に、中学校で「1人1台」を経験した「GIGA 1期生」たちが入学してくる。その中には、日々の授業で日常的に端末を活用し、多様なアプリも不自由なく使いながら学んできた生徒もいるかもしれない。もし、高校の授業が黒板とチョークを使った従来型のものばかりであれば、そうした生徒やその保護者が不満を抱く可能性もある。ICT活用の是非は別問題として、こうした事態に直面する可能性があることは、どの高校関係者も認識しておく必要があるだろう。

それとは逆に、ICT化が著しく進んだ高校に、ICTを使った授業をほとんど経験していない生徒が入学してくることも考えられる。そうした場合、高校にはどのような対応が求められるのであろうか。私見を述べれば、この点はさほど心配することはないと考えている。すでに中学生の多くがスマートフォンを所持し、ICTを活用して日常的に検索・文字入力などを行っている。ドリルアプリの活用、プレゼン資料の作成程度であれば、早い段階でできるようになるであろう。実際に小中学校においても、使い方に戸惑う教師を尻目に、子供たちが次々と新しい使い方を開拓しているような状況が散

教室の授業でデジタル機器を「週に1時間以上使う」割合



OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 補足資料「生徒の学校・学校外における ICT 利用」を基に作成。

見される。

学習者用デジタル教科書が学びを劇的に変える

学校の ICT 活用におけるもう一つの大きな動きが、学習者用デジタル教科書の導入である。文科省は2021年度、「学習者用デジタル教科書普及促進事業」として52億円を計上し、小学校5・6年生の1教科分、中学校全学年の2教科分の学習者用デジタル教科書の整備を進めてきた。実際にどのように導入されたかは定かではないが、活用が進んだ学校では、教室での学びが劇的に変わろうとしている。

例えば、これまで英語の Listening は、教師がプレーヤーを再生するなどして行っていた。この場合、再生回数は教師が決めるため、生徒たちは Listening の得意・不得意にかかわらず、同じ回数しか聴くことができない。だが、学習者用デジタル教科書が入れば、本文の Listening を個々の生徒に委ねることができる。再生速度も変更できるので、生徒は遅い速度でじっくり聴くことも、通常で速度で繰り返し聴くこともできる。

なお、高校の英語教科書の多くは教科書掲載の QR コードから音声にリンクできるようになっており、学習者用デジタル教科書が未導入の状況でも生徒はスマホやタブレットを教科書紙面にカざすことで英文音声を聞くことができる。

また、本文の空欄補充問題なども、これまでは全員に同じプリントが配付され、全員が同じレベルの課題に取り組んでいたが、学習者用デジタル教科書のマスキング機能を使えば、生徒一人一人の習熟度に応じてレベルをアレンジできる。

つまり、教師主導で進められていた授業が生徒主導になり、一人一人が異なる課題に、異なる方法で取り組むような状況が生まれてくる。これは、中央教育審議会の答申(2021年1月)が謳う「指導の個別化」と「学習の個性化」、すなわち「個別最適化された学び」にほかならず、学習者用デジタル教科書はその理念を実現するツールとして考えることが

できる。

文科省では、小学校の教科書が改訂される2024年度に、学習者用デジタル教科書を本格導入する方針を示している。また、英語に関しては2022年度から、希望する全ての小中学校に学習者用デジタル教科書を無償提供する方針も示している。こうした流れを見ても、ここ数年のうちに小中学校の ICT 化が一気に進む可能性は大きい。そうなれば、ICT 化の波は高校にも否応なしに押し寄せてくるであろう。

ICT の活用を「当たり前」にしていく上で必要なこと

GIGA スクール構想による1人1台端末の整備、学習者用デジタル教科書の普及のほかに、現在は「教育ビッグデータ」の活用に向けた準備も進んでいる。これは、子供たちの学習履歴(スタディ・ログ)を収集・分析し、学習指導の充実につなげていくもので、2020年10月には文科省が「教育データ標準」(第1版)を公表するなど、そのアウトラインが固められつつある。また、2022年1月には、デジタル庁が「教育データ利活用ロードマップ」を公表し、短期(～2022年頃)、中期(～2025年頃)、長期(～2030年頃)の3フェーズに分けて、目指す姿を明らかにしている。

こうして学習者用デジタル教科書が普及し、教育ビッグデータの活用が日常的に行われるようになれば、子供たちの学び方はさらに劇的に変わってくる可能性がある。特に英語科は ICT の強みを生かせる余地が大きく、今後は外国の映画やオンライン英会話サービスを活用した学びなどが教室で行われるようになるかもしれない。

一方で、現状は「ICT 格差」が大きい。教員の中には、十分な研修・サポートが受けられない中で、ICT 活用の壁を意識的な問題で乗り越えられない者も少なくない。授業での活用を「当たり前」にしていくためには、環境整備だけでなく、教員が活用に前向きになれるようなサポート、労働環境の改善も行政サイドには求められる。



ICTを活用して授業と学習の好循環を実現させるためには

今田健蔵 (こんた けんぞう)
(東京大学教育学部附属中等教育学校教諭)

◎コロナ禍での実践で気づいた授業の本質とは

遠隔授業では、集中力が途切れないようにするために、一方通行型の講義のような時間を最低限にする必要があります。さらに、学習時間を自宅でも十分確保して、生徒が自発的に学習に向き合えるように指導していきたいなと考えていました。「パソコンを使って授業する!？」というのが生徒にとってはじめは新鮮に映りますが、慣れてくるにつれ、その新鮮さが薄れていくと予想しました。そのため、遠隔授業によって、生徒の学習へのモチベーションを高めつつ維持して、その結果、自宅での学習に生徒が自発的に向き合うような指導が必要だと考えました。

そこで、① Google Classroom 内に教師が録画した本文内容に関するオーラル・イントロダクションを生徒に視聴させる、②その後、遠隔授業当日は、Zoomのブレイクアウトルームの機能を使って、教科書本文の題材を元に生徒同士で意見交換させる、という手順によって、題材への興味関心につなげ、さらに生徒同士のコミュニケーションの時間を確保しました。

また、授業中にクラス全体で共有された問いには、ヒントは出しても、すぐに答えを示さず、良い意味で中途半端にしておいて、自宅学習のためにとっておきます。「それらの問いについて、次回みんなで意見交換するから、教科書やインターネットなどで情報を収集し考えをまとめてきましょう」としておくのです。そのようにすると、アウトプットを意識しながらインプットすることになります。そして、自宅学習の目的の1つが、クラスというコミュニティへの貢献になり、学習することの意味を生徒が考えることにつながります。つまり、授業が、社会に出るためや、大学に進むための準備ではなく、「今、ここ」という生徒自身の人生における学びを目指すことになるのです。

さて、このような実践を通して気づいたことがあります。それは、遠隔授業の限られた時間や環境の中で、重

要なものを優先して授業内容に組み込んだ結果、普段の授業で大切にすることは何かははっきりした、ということです。と同時に、これからの教室での授業をICTによって、より良くできるのではないかと考えました。

(中略)

◎「生徒のために何かしたい」と思考する教師

みなさんの中にも、自宅学習、または学校外での学習を生徒にもっとしてもらいたいと考える方は多いと思います。そこで、ICTを使ってどのようなことができるか考えてみます。

課題での指導を例に考えてみます。紙で直接英作文課題を提出していたのを、Google Classroomでの提出に変更するというのは方法が変わっただけで、自宅学習の促進という目的は達成されたとはいえません。目的のためには、①作品のような味わいのある英作文課題の場合は、オンライン上で生徒がお互いに鑑賞できるようにする、②教師からのフィードバックが必要な英文エッセイのような課題の場合は、エッセイを画面上に映しながらそのフィードバックを録音・録画し、個別に生徒に送信する、というのはどうでしょうか。

こうすることで、①であれば、帰宅後に自分のパソコンで他のクラスメートの作品を楽しむことができます。②の場合、紙でのフィードバックよりも情報量が多くなり、文字で伝える以上のニュアンスも伝わるため、理解がしやすいはずで、それを帰宅後のパソコン、帰宅途中の電車などのスマホで視聴できるようになるのです。

information

…この記事の続きや他の特集記事は『英語教育』2021年5月号第1特集「端末が教室にやってくる! GIGAスクール環境を生かした指導アイデア」でお読みいただけます。

毎月14日発売 定価880円(税込)





ロイロノート・スクールを活用した 音読・リテリング指導

川畑正樹 (かわばた まさき)
(京都府立鴨沂高等学校教諭)

中川めぐみ (なかがわ めぐみ)
(京都府立鴨沂高等学校教諭)

本校では、5年前から面接形式のリテリング（以下RT）テストを開始し、3年前の教員用と生徒貸出用iPad導入以降はロイロノート・スクール（以下ロイロ）によるRTテストを行っている。ロイロ等の学習支援ツールでは教員・生徒間で各種ファイルの送受信が容易にできる。コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲの授業では、教員用デジタル教科書を電子黒板に投影して様々な音読活動とRTを中心にした授業を行い、年5回の定期考査前にRTテストを行うという取組みを英語科全員で行ってきた。RTテストの概要は、教科書の内容と自分の意見を絵とキーワードをヒントに英語で説明し、音声データをロイロで提出。事前に示したループリックでALTまたはJTEが採点し、ロイロ上で返却する、というものである。

そして今年度、1年生はBYOD（個人所有）による1人1台端末下での授業が可能となった。以前の面接形式では1クラス約70分、現2・3年生の1人1台iPad貸出方式でも15分以上かかるRTテストが、BYODでは操作の説明やログイン等の手間が省け、数分で実施できるようになった。しかし、BYODの利点はそれ以上に日々の反復学習にあることを実感している。

◎個のレベルに合わせた負荷をかけた音読課題

(1)共有フォルダの活用による音読課題

音声ファイルや本校採用教科書付属の音読アプリ（音声再生と共に本文が表示される。ナチュラルスピード、スロースピード、ポーズ入り音声（リピート用）、フレーズ表示、等が準備されている）をロイロ上の資料箱（共有フォルダ）へ入れておき、オーバーラッピング、シャドウイング、サイトトランスレーション（以下サイトラ）など個々のレベルに合わせて負荷をかけた音読を行い、毎日その日のベスト音読の録音を提出させている。音読は最低5回と指示し、提出用のプリントに回数を記入させるが、録音の提出は教員の点検負担を考え、ベスト音読1回のみとしている。ロイロでは音声スピードを×0.8（0.8

倍速）、×0.5とアプリよりさらに遅くすることもでき、スローラーナーでもオーバーラッピング等が可能である。

(2)フィードバック

想定以上に、生徒達は自分のレベルに合わせて負荷のかけ方を工夫し提出する。提出された音読を授業で紹介することで、生徒達の音読の幅が広がり、高い負荷をかける意識をつけることができています。紹介された生徒の自信にもつながる。

(3)提出音読例

① ナチュラルスピードのシャドウイング：より負荷をかけたナチュラルスピードのシャドウイングに挑戦し、音声より多少遅れても気にせず次の文に入って続けた生徒の提出音声を聴かせた。シャドウイングは初期段階ではこの形で十分であることを改めて伝え、チャレンジを評価することで、他生徒の意欲を伸ばすことができた。

② ×0.8に遅くしたシャドウイング：標準クラスでは、×0.8スピードで提出された音声を紹介し、少しずつステップアップできることを生徒達が認識し、意欲と自信を高めた。

③ 教科書アプリ活用のサイトラ：フレーズごとに日本語が表示され、設定秒後に英語表示と音声再生ができる機能を活用し、生徒が提出したサイトラ音読例も授業で紹介した。授業では、レベルの異なる音読の選択肢を与え、ヒント役と音読役のペアワークを行う中で、サイトラへの挑戦も促したが、これを課題として提出した生徒の音読は、他生徒に大きな刺激となった。

information

…この記事の続きや他の特集記事は『英語教育』2021年12月号第1特集「オンライン・対面授業に対応 ここから始める普段の指導にICTをプラス」でお読みいただけます。

毎月14日発売 定価880円（税込）





オンラインお悩み相談会によせられた 端末活用 Q&A

岩瀬俊介 (いわせ しゅんすけ)

学校法人石川高等学校・石川義塾中学校教諭

黒澤絵里香 (くろさわ えりか)

福島県教育センター教育相談チーム指導主事
(前福島県立保原高校教諭)

小林 翔 (こばやし しょう)

大阪教育大学特任准教授

オンラインで開催した「端末活用お悩み相談会」でいただいた質問と、回答者の先生方からのアドバイスを紹介します。

Q Google for education を使って、生徒に質問をし、投票形式で答えを集計して、その反応を授業の展開に反映させたい。どうすればよいですか？

A [岩瀬] Google Workspace for Education (旧 G Suite) は Chromebook, Apple (iPad), Windows のいずれのプラットフォームでも運用可能で、生徒が解答する際に個人アカウントは不要です。

質問に対する投票形式で答えを集めてその反応から授業を展開する際、アンケート用フォームの Google Forms を利用することができます。わたしは生徒たちに Form を配信しスマートフォンで授業中にその場で答えさせています。提出されるごとに逐一集計されるので、その場で得点の傾向や生徒がよく間違えていた問題を示すことができます。生徒がどう答えたのかを見ながら、簡単な解説を加えることも可能です。

事前に配信予約を設定しておく、授業開始前に配信時間を設定でき、授業の最初でテストを行い、解説するという流れを円滑に進められます。

最近では、各教材出版社でも Forms の教材を提供しているのでそれを自分で簡単に編集し直して、配信するという形で扱うこともできます。

他の例としては、三者面談のお知らせと日程の調整に使ったり、また検温や健康チェックなどに毎朝答えてもらってそれを確認し、データを蓄積して活用することもできます。

■ 図 1 Google Forms 小テスト作成イメージ



Q Microsoft Teams での共同編集の際の上書きを防ぐ機能はありますか？

A [小林] 共同編集にあたっては、Google のドキュメントと同じように、Word の「校閲」にある「コメント」機能などを使用したり、その採否を決定することによって意見を反映することができます。また、これは Microsoft Teams だけの話ではないのですが、共同編集の場面においては、他人の Word ファイル等を間違えて消去したりするのを防ぐためにも PDF のファイルも一緒に保存することです。例えば、LMS や Google ドライブ等のウェブ上の共有フォルダに授業用の Zoom の招待 URL などを載せる場合、他の学生が間違えて勝手に削除してしまうと、他の学生がその情報を見られなくなってしまいます。それを防ぐためにも、編集されていない情報が含まれているファイルは、PDF 化して Word と 2 種類提供しておくといいですね。

Q 動画共有プラットフォームの Flipgrid を有効活用したいのですがどんな方法がありますか？

A [小林] Flipgrid では、携帯の LINE のメッセージの

ようなイメージで、簡単に動画を送り合うことができます。スピーキングテストや、生徒の意見・感想を述べる振り返りを動画に撮影して共有できます。期待される効果には、以下のようなものがあります。

- ①フィードバックが容易
- ②同期型と非同期型の組み合わせによる教育的効果の促進
- ③学生自身の学びの可視化
- ④伸びを体感
- ⑤協働的学習
- ⑥他者からの刺激
- ⑦モデリングの豊富さ

生徒同士でのフィードバックができるのもメリットです。友達の動画を見て学ぶことにより、もっと練習して良い動画を共有しようという姿勢にもつながります。また、上手に英語で発表している動画と今の自分の動画を見比べながら自分の課題を見つけてもらうこともねらいの1つです。

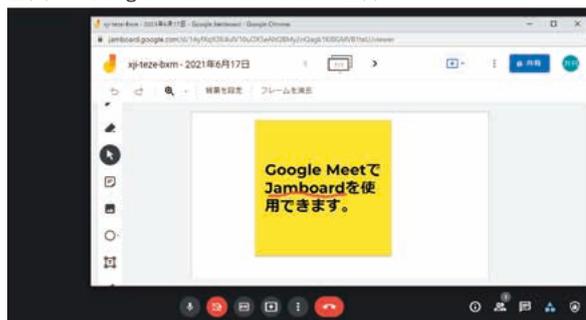
また、学生の力の伸びを可視化できるのもメリットですね。例えば4月当初に行った自己紹介のプレゼンを、学年の終わりにもう1回やってみる、1年前に使っていた表現と現在の表現を比較するなど、生徒自身がスピーキング力の伸びを体感できることも非常に大切だと思います。

他にも具体的な活用場面の例としては、小学校なら海外の小学校とクリスマスデコレーションについて異文化交流をする、大学の教員養成課程ならマイクロティーチング動画を共有するなど、映像をシェアする目的に応じた活用方法があります。それぞれ先生やクラスメートに見てもらい、コメントをもらうことがやる気につながります。

Q ビデオ通話用の Google Meet で双方向的な授業をする時に便利な機能はありますか？

A [黒澤] Meet でもブレイクアウトルームを作ることができるので、小グループでの話し合いができます。また、同時に Jamboard を使って画面共有しながら授業ができる機能もあります。Meet を開くと下に3点リーダーが表示され、それをクリックすると「ホワイトボード Jam を開く」と出てきます。新規に作成することも、あらかじめ用意したデータをドライブから選択することもできます。

■図6 Google Meet で Jamboard を併用



Q 授業で出欠を取る際、生徒名を50音順で並べるなどの工夫はできますか？

A [小林] 並べ替える目的にもよりますが、出欠を効率的に行いたいというのであれば、私がいつもやっているのは、Zoom を用いたオンライン授業の最初にブレイクアウトでグループワークに取り組みさせる方法です。全体の参加者人数を見ると、何名不在なのが把握できます。そして、ブレイクアウトルームに割り振った後に遅刻して入室してきた学生がいた場合は、グループに割り振られず、全体の場所に残り続けているため一目瞭然です。ブレイクアウト割り振り後にその遅刻した学生に、口頭で事情を確認し、その後、どこかのグループに割り当てれば遅刻者もグループワークに参加できます。こうすれば遅刻者の確認は簡単です。

他にも、チャット機能を利用して、何かお題を出して一言記入させておくと、授業後にそのチャットを見ながら時間をかけて出欠の確認もできるため、授業時間を確保できます。

[参加者の先生から] Microsoft Teams を使っていますが、授業の最後にログを取ることで出席の確認をしています。さらに電話をするなどして欠席や接続不良の学生のフォローをしています。

information

…この記事の続きや他の特集記事は『英語教育』2021年8月別冊「英語教師のためのICT 端末活用授業ガイド」でお読みいただけます。

- 第1部：授業で役立つ ICT 端末活用マニュアル
- 第2部：ICT 端末活用 授業実践大集合
- 第3部：授業での端末利用で知ってほしい最新知識

定価1,760円（税込）



大修館書店英語教科書のデジタル教材

以下のアイテム以外にも、『教授用指導資料セット』に同梱で、「パワーポイント」「提示用教科書紙面 PDF」「フラッシュカード」「補充画像・動画」等をご用意しています。

▶ 指導者用デジタル教科書(教材) / 学習者用デジタル教科書+教材

デジタル教科書(教材)は、教科書紙面を提示し、そこから音声や動画などさまざまなコンテンツを活用できる教材です。指導者用では端末にインストールし、オフラインで利用できるアプリ版と、オンラインで端末の容量を使わずにご利用いただけるクラウド版をご用意。学習者用ではクラウド版のみをご用意しています。



各種コンテンツをシンプルなアイコンから直感的な操作でスムーズにご利用いただけます。

紙面の拡大、書き込み等はツールバーから行うことができます。書き込んだ紙面は保存することができます。

デジタル教科書の特設ページはこちら→



主な機能

	指導者用	学習者用
基本機能		
紙面拡大・縮小	●	●
書き込み	●	●
マスク	●	●
しおり(共有機能)	●	●
紙面の保存	●	●
教科固有ツール		
タイマー	●	
メトロノーム	●	
ルーレット	●	

主な搭載コンテンツ・データ

	指導者用	学習者用		指導者用	学習者用
英文音声(本文/設問文)	●	●	レッスンサマリー	●	
新語フラッシュカード	●	●	QR コンテンツへのリンク	●	●
動画	●	●			
本文ビューア	●	●			
新語/例文ビューア	●	●			
活動用ワークシート DL (Word / PDF)	●	●			
解答/表現例	●				
和訳表示	●				
補充問題/補充例文	●	●			
スクリプト	●				

*機能、搭載コンテンツデータは教科書によって異なります。

▶ 4 技能アプリ 大修館イングリッシュ・トレーナー



大修館書店の英語教科書に対応した、生徒の学習をサポートするICT教材です。

①②どちらも使えて1つの教科書につき年間990円(税込)

より詳しい情報はこちら→



① 「リスニング・発音編」

教科書の音声で、これまでの生徒用音声 CD に代わり発音評価機能付きのアプリで提供します。

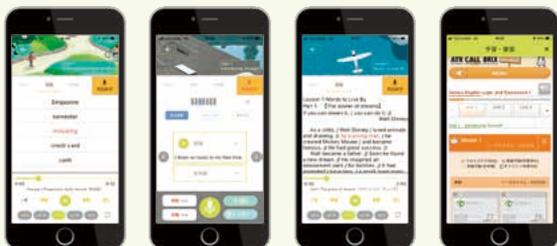
スマートフォンやタブレットにダウンロードして気楽に取り組めます。

コンテンツ ※教科書によってコンテンツは異なります。

新出単語、本文、スラッシュリーディング、モデル文、質問文、文法例文、付録類

利用環境：スマートフォン・タブレット

★ Android・iOS スマートフォンアプリまたは iPad アプリで利用
 ・OS … iOS 14.0 以降 / iPadOS14.0 以降 / Android 10 以降
 ・音声データ DL 時・発音評価時は要インターネット接続



② 「予習・復習編」

教科書の内容を予習して授業に臨み、また繰り返し聞いて話して学習を定着させるための自習用アプリです。英語学習システム「ATR CALL BRIX」を採用。

スマホアプリとパソコンの両方で利用でき、履歴管理機能や目標設定機能もついて、先生が生徒の取り組みを確認できます。

コンテンツ

単語確認/発音練習/アクセント練習/英→日/日→英/音声→日本語訳/単語タイプ/本文発音練習/空所補充ディクテーション/並べ替え/シャドーイング/英文リピーター練習/英文理解問題自習など

(*教科書によって搭載コンテンツは異なります)

利用環境：スマートフォン・タブレット・パソコン

★ Android・iOS スマートフォンアプリまたは iPad アプリで利用
 ・OS … iOS 14.0 以降 / iPadOS14.0 以降 / Android 10 以降 ・要インターネット接続
 ★パソコンのブラウザで利用
 ・OS … Windows 8.1 (サポートは 2023 年 1 月 10 日まで)、10、11 / MacOS 11.6、12 / Chrome OS
 ・ブラウザ … Edge(Windows) / Chrome / FireFox / Safari(MacOS) ・要インターネット接続

※仕様は 2022 年 4 月現在のものです。今後、予告なく変更することがあります。



見たかもしれない風景

多摩川大橋緑地にて。
| 撮影 | 河西 遼



SLA における新しい動機づけ概念：「エンゲージメント」とは？



廣森 友人 (ひろもり ともひと)

明治大学教授

スマホを使う時間を減らしたい。でも、ただだと動画や SNS を見続けてしまう。夏に向けて、ダイエットをしたい。でも、つつい甘いものに手が伸びてしまう。私たちは一度すると決意したことや心からしたいと思っていることでも、きちんと実行するとは限りません。つまり、思っていることと実際の行動は必ずしも一致しないのです。

英語学習も同様です（例：英語を話せるようになりたい。でも、実際の勉強は長続きしない）。Al-Hoorie (2018) が行った研究は、このことをよく表しています。彼はメタ分析（複数の研究成果を要約・統合する統計的な手続き）を用いて、計32,078名を対象にして行われた32の研究を分析しました。その結果、「英語を頑張っていると思う」といった主観的な努力（intended effort と呼ばれる）は学習成果とごくわずかな相関（ $r = .12$ ）しかなかったことを報告しています。私たちはいわゆる「やる気」の大切さについてはよく理解していますが、英語ができるようになるためには気持ちだけでは不十分であり、実際の行動を伴う必要があります。

POINT 1

英語の上達には、やる気（気持ち）だけでは不十分。実際の行動が不可欠。

近年の SLA 研究では、このような行動面も含めて動機づけという概念を捉えようとする動きが高まっています。そこで注目されているのが、「エンゲージメント」(engagement) と呼ばれる概念です。エンゲージメントには数多くの定義がありますが、その主要な意味は「積極的な関与、参加、取り組み」です。動機づけが学習の準備に必要なものだとすれば、エンゲージメントは学習を成立させるために不可欠なものです。新学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」の測定と評価が求められていますが、エンゲージメントと重複する部分が多くあります。結果として、エンゲージメントに対する理解を深めることは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価や育て方にも大いに役立てることができます。

では、エンゲージメントの構成要素について詳しく見てい

きましょう。一般に、エンゲージメントは生徒が動機づけられた状態を行動面、認知面、感情面、社会面など多様な側面から包括的に捉えようとしている点が特徴です。以下の表は、各側面の具体例をまとめたものです。

行動的 エンゲージメント	・難しいところがあっても、諦めずに取り組む ・先生やクラスメイトの話をしっかり聞く
認知的 エンゲージメント	・勉強の仕方を考えながら取り組む ・間違えたときは、原因が何だったかを考える
感情的 エンゲージメント	・興味や関心を持って取り組む ・新しいことについて学ぶことを楽しみにしている
社会的 エンゲージメント	・クラスメイトと協力しながら取り組む ・わからないところはクラスメイトと教え合いながら学ぶ

私たち教師はひょっとすると、生徒が積極的にペアワークに取り組んでいたり、生徒同士が活発に意見を言い合う様子（行動的エンゲージメントが高い）を見て、「あの子はやる気がある」「動機づけが高い」と判断することがあるかもしれません。しかし実際には、彼らはおしゃべりをしているだけだったり（認知的エンゲージメントが低い）、相手との良好な関係ばかり気にして（社会的エンゲージメントが高い）、活動には全く興味がなかったりする（感情的エンゲージメントが低い）こともあるのです。したがって、生徒の学習への取り組みを判断する際には、行動面など観察しやすいものだけでなく、認知面、感情面など彼らの内面的な部分を汲み取り、分析し、統合的な観点から評価する必要があります。

POINT 2

生徒の英語学習に対する取り組みは、多面的に捉えることが重要。

エンゲージメントについて学ぶことで、生徒の学びをより豊かに理解することができるようになります。次回からは、エンゲージメントの各側面について、より詳しく見ていくことにしましょう。

参考文献

Al-Hoorie, A. H. (2018). The L2 Motivational Self System: A meta-analysis. *Studies in Second Language Learning and Teaching*, 8(4), 721-754.

Profile

主な著書に『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』（大修館書店）。学生のエンゲージメントを高めるために日々奮闘中！

Question
Box

英文法の「なぜ」?

朝尾 幸次郎 (あさお こうじろう)

英語研究者

Vol.01

Stay Homeは Stay at Homeではないの?



Q 「ステイホーム」は和製英語?

新型コロナウイルスの勢いはなかなか収まりそうにありません。この2年間、テレビで Stay Home ということばを何度も見ました。これは正しくは Stay at Home ではないでしょうか。

A 実は古い英語のなごり

どちらも正しい英語です。アメリカで新型コロナウイルスを担当する疾病対策センター(CDC)は「体の具合が悪ければ家にいよう」という呼びかけで両方の言い方を使っています。

Stay home when you're sick.

Stay at home when sick.

今から10世紀ほど前、英語の名詞・代名詞・冠詞には「は/が」を表す主格、「を」を表す対格、「の」を表す属格(所有格)、「に」を表す与格という形がありました。しかし、その後、名詞の所有格、そして代名詞を除いて格はなくなりました。現代英語で格という意識は希薄です。

さて、10世紀前の英語では名詞の対格(目的格)は現代

英語の throw a stone (石を投げる)のように「を」という意味で動詞の目的語を示しました。そして、この対格にはもう1つの使い方がありました。「行く」、「来る」のような移動を表す動詞に使うと「…に対して/向かって」という意味を表したのです。対格は動作が向かう対象を示すことからこの意味につながりました。

1944年公開の名作映画『我が道を往く』の原題は *Going My Way* です。「こちらへどうぞ」と人を案内するには *Come this way.* と言います。どちらも〈自動詞+目的語〉という形に見えます。これは「…に対して/向かって」という意味で名詞を副詞的に使った対格のなごりです。

「…に向かって」という名詞の対格の使い方はその後、移動の意味から「…に」という場所の意味でも使うようになりました。そのため、格が消えた後も、home には名詞本来の使い方とともに、対格から生まれた「家に」という副詞的な意味が残りました。英語に stay at home と stay home という両方の言い方があるのはこのためです。今では英語辞書は home を名詞だけでなく副詞とも示しています。

名詞を副詞的に使うこの言い方は今ではさらに拡大し、時や距離なども表すようになりました。Come again *next week.* (また来週、来てください)の next week, walk *two miles* (2マイル歩く)の two miles などはその例です。くわしくは『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」』(大修館書店)の56-57ページをごらんください。

Profile

『英語の歴史から考える英文法の「なぜ」』『同2』が大好評。『英語教育』2022年4月号から連載「朝尾幸次郎の English Detective」もスタート

Let's Cook!

Pho Ga (Vietnamese Chicken Noodle Soup)

フワー・ガー

Ingredients (serves 1)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 100g rice noodles (pho) | <input type="checkbox"/> 30g bean sprouts |
| <input type="checkbox"/> 400ml water | <input type="checkbox"/> Sliced red chili pepper
—a little |
| <input type="checkbox"/> 1 tsp chicken stock | <input type="checkbox"/> Cilantro—a little |
| <input type="checkbox"/> 1 tbsp nuoc mam fish sauce | <input type="checkbox"/> 1 sliced lemon |
| <input type="checkbox"/> A pinch of salt | |
| <input type="checkbox"/> 80g chicken thigh | |

* If the instant chicken stock tastes too salty, use it in smaller quantities because most already include salt. If there is enough salt in the chicken soup, adding stock is unnecessary.

* Lime or sudachi lime can be used as a substitute for lemon.



Directions

- Place water in a pot and heat. When it comes to a boil, add chicken stock, and boil chicken thigh. Once the chicken is heated through, remove it from the pot and cut into bite-sized pieces.
- Season the soup with nuoc mam and salt.
- Blanch bean sprouts in boiling water. Cut cilantro into small pieces. Thinly slice red pepper and lemon.
- Boil water in a pot at a 1:6 to 1:8 noodle to water ratio. Add pho to the pot and cook according to package direction time.
* Once the water is boiling again, slightly reduce heat and maintain a simmer. This will prevent the pot from boiling over with starchy foam.
- Drain the boiled pho and put in a bowl. Place the chicken and bean sprouts on top, then pour on the hot soup. Garnish with cilantro, red pepper and lemon.

PANORAMA English Communication 1 Lesson 5 では世界のお米料理を扱っています。

高校授業の

NEXT PHASE 授業と指導の
「変化」にチャレンジ!津久井貴之 Tsukui Takayuki
大妻中学校高等学校教諭

第1回 新連載

4月を迎える授業準備・授業開きを変えよう

いよいよ新課程がスタート。現状に満足せず、試行錯誤を繰り返しながらよりよい授業づくりにチャレンジする1年にするために、本連載では、従来の授業や指導法に目に見えてわかる変化や新しい試みを1つの“phase”（変化するもの・状態の1つの姿、『ジーニアス大英和辞典』より）として取り上げ、先生方と共有していきたい。第1回は、新年度に向けた授業準備と授業開きを取り上げる。

変化1：新年度準備 教科書の読み方を変える

主たる教材である教科書の読み方を変えよう。新年度の準備をする際の『コミュニケーション英語』または『英語コミュニケーションI』の読み方を一例取り上げる。「最初の数時間分はプリントを作っておきたいからレッスン1くらい読んでおくか」、「このページは難しい英文が多いから時間かかるな」などの読み方は、アウトプット系の言語活動や「思考・判断・表現」が問われるような読み方のアイデアにはつながらない。

では、どう読むか。まずは一読者としてフラットに英文を読むことから始めよう。各レッスンが独立した物語や説明文として構成されている教科書は「オムニバス短編集」とも言える。教材として読む視点を忘れることはないが、まずは通読してほしい。その際、私が意識していることや行っていることを右にまとめてみる。

先生方自身が初見で英文を読んだ時に感じた「？」や「！」を大切にしたい。貼られた付箋紙は、授業中の発問のヒントになる。英文を読んで驚いたこと、もっと知りたいこと、筆者の主張や視点への共感や違和感などが言語活動で表現して相手に伝えたい内容の素になる。だからこそ、そういう読み方をまず教師がやってみてはどうか。

読み終わったら、右の④で選んだ2～3のレッスンが学期の中心となる単元になるかどうかを検討する。具体的には、設定したCan-doや指導目標を意識しながら技能統合型の言語活動ができないかを考える。その際、教科書と同題材の英文や同

新年度を迎えるための教科書の読み方例

- ① まずは教科書会社作成のシラバスをざっと眺める。
- ② 扱っている題材・テーマが面白そうなレッスンを読む。
- ③ 読みながら「気になるところ」に付箋紙を貼る、ページの端を折る、など
*「気になるところ」の実例
 - many scientists って How many? このあと出てくるの?
 - この話の続きはあるのかな。
 - ここの英文、具体例がなんか唐突だな。
 - なんでインタビューすることになったんだろう。
 - このセクション、なんでここで終わってるのかな?
 - このキーワード、こっちの別のレッスンに出てくる人のキーワードにもなってるな。など
- ④ 興味を抱いたレッスンを中心に Web で周辺情報を調べてみる（教師用指導書で出典もチェック）。

じ事実を異なる視点から捉えた英文、映像資料などを探せるとよいだろう。ちなみに、昨年度読んで（聞いて）面白いと思った教材は3つ。

- ① 「トロッコ問題」に代表されるようなジレンマ・倫理に関する英文
- ② 動物園の存在意義に関するニュース教材
- ③ 市場原理、特に教育や福祉、人権に関する物事を商品化することについての教科書の英文
例えば、①では、身近になってきたテクノロジー

→ この続きは『英語教育』2022年4月号でお読みいただけます。

- ▶ 第1特集：授業で・生徒との関係づくりで春4月にしておきたいこと
- ▶ 第2特集：早めに気づきたい児童生徒の困りと特性
- ▶ 特別付録「日本の英語教育と『英語教育』誌70年史年表（1950s-2010s）」
- ▶ 14本の新連載！

定価913円（税10%）



高校授業の NEXT PHASE：授業と指導の「変化」にチャレンジ [1]

(AI や自動運転技術) にも倫理問題が潜んでいることに気付かせるため、MIT メディアラボの研究チームによる思考実験調査から自動運転技術における倫理問題を扱った英文や動画なども合わせて教材化して授業で扱った (高3の例)。

こうした単元は配当授業時数も増やしておく必要がある。設定した領域統合型の言語活動はそれ自体を評価の対象にすることもできるし、類似の活動をパフォーマンステストとして実施することも可能だ。扱う文法事項や学期の授業数を気にしながらではあるが、個人的には、レッスンの順番を入れ替えたり、扱わないレッスンがあったりしてもよいと考えている (領域統合型の言語活動や単元構成の具体は別の回で詳しく扱いたい)。

変化2：授業開き「先制パンチ」をやめる

「高校の英語は違うぞ、覚悟しておくように」、「高校は予習をしていないとついていけないぞ」と中学校との違いを強調して生徒の不安を煽って始める4月の授業開きを変えよう。高校の英語の難しさを生徒にアピールするかのようになり、いきなり文型説明から始まる4月の授業を変えよう。

では何から始めるか。言語活動から始めよう。生徒の学習や英語力の実態、言語活動への慣れを把握するために、右のような流れはどうだろうか。

②では、特に高1の場合、中学校で学習した語彙や文法を使用して行える言語活動を通して、「なぜ中学校で学習したことができないのか」ではなく、高校での学習や活動で使いながらしっかり身に付けていくことを伝えて4月をスタートしたい。

③や④では、Google Forms など ICT ツールを活用して効率化を図ろう。学期末や年度末の振り返りを継続的に蓄積することも可能になる。

また、④の「目標設定」については、その場ですぐに行わせるよりも、4月が終わるあたりで設定させるとよい。授業の具体的なイメージや自己の課題に気づき始めた時期の方が良い目標設定ができる。目標設定や振り返りは最初が肝心なので、基準もないままに書かせて、教師が Good! Wonderful! などのスタンプを押す、◎を付けるのをやめよう。「先生が喜びそうな目標や感想を付度して書く」生徒が育つだけだ。私の場合、右のスライ

■言語活動から始める授業開き例

① 自己紹介・導入

教師の自己紹介に続いて、②で行う言語活動の導入として、まずは教師自身の考えや気持ち、感想を英語で伝える。

- * 既習の文法・語彙を意識した英語で語ろう。
- * いつもより「間」を空けて、生徒の表情を見ながら。

② 前学年・前校種の学習で行える言語活動

高1であれば中3の教科書を参照して言語活動を行う。

- * 「英語コミュニケーション I」では「話すこと」、「論理・表現 I」では「書くこと」などのように科目間連携ができるとよい。

言語活動の具体的なアイデア例については次頁末のQRコードを参照ください。

③ 言語活動+学習履歴の振り返り

言語活動の振り返りに加えて、これまでの学習履歴や全学年の授業の取組などを振り返らせることで、年度当初の学習実態の把握を兼ねる。

- * 科目の特性や前学年の英語力や学習実態で気になることを中心に質問項目を絞る。自由記述も設けたい。

④ 科目のガイダンス

Can-do の提示や予復習の仕方などのガイダンスを行う。

- * 生徒自身の目標を設定させてもよい。

■授業で実際に使用したスライド

本当に目指せる目標にするためのチェックポイント ~4つの“-ables”~	
1	Valuable: あなた自身がやる価値があると思っているか?
2	Achievable: あなた自身、達成可能だと思う目標か?
3	Measurable: 達成できたかどうかを判断できるか?
4	Sustainable: 目標達成のための努力を続けられるか?

ドに挙げた4つの -ables に沿っているか、目標を設定させた後に自己・相互チェックをしてもらう。

4つ目の“Sustainable”というチェック項目は生徒自ら提案してくれた。目標づくりからこの生徒は主体的に関わってくれた証拠だ。



教育ニュース

2021年 9月	文部科学省は教員採用試験について1次試験の時期の前倒しや専門性を重視した特別選考の促進など実施の柔軟化を検討。
10月	埼玉県内の公立小学校教員が時間外労働に残業代が支払われないのは違法だとして未払い賃金の支払いを求めた訴訟で、さいたま地裁は請求を棄却、教員の勤務環境の改善を付言。／2020年度に不登校だった小中学生は前年度比8.2%増の19万6,127人で過去最多を更新。
11月	20年度中に計画していた修学旅行を中止した学校は中学で約5割、高校で約6割。
12月	20年度に精神疾患で休職した教員は5,180人、4年連続で5千人を上回る。／政府は子ども政策の司令塔となる「こども家庭庁」の基本方針を決定、23年度の創設を目指す。
2022年 1月	国立大学協会は25年の大学入学共通テストから、一般選抜の受験生に教科「情報」を加えた6教科8科目を課す方針を決定。／全国の公立小中高校、特別支援学校の1,591校で年度当初、計2,065人の教員不足が発生。▶ PICK OUT① ／東京大学前の路上で大学入学共通テストの受験生ら3人が刃物で刺される、殺人未遂容疑で名古屋市の私立高2年の少年を現行犯逮捕。／共通テストの試験中に「世界史B」の問題が流出、受験生の子女子大学生が香川県警に出頭。
2月	大学入試センターが大学入学共通テストの平均点の最終集計を発表、数学Ⅰで21.89点など前身のセンター試験を通じ7科目で過去最低点を記録。／政府は教員免許更新制を廃止するための関連法案を国会に提出。▶ PICK OUT②

PICK OUT

① 2,000人以上の教員が年度当初、計画通り学校に配置されていなかった——。そんな実態が文科省が初めて行った全国調査で浮き彫りになった。調査は教員不足の実態とその影響を把握するため、全都道府県・政令指定都市などの教育委員会を対象に実施。それによると、21年5月1日時点で、教委の計画通りに配置されなかった教員は、小学校979人、中学校722人、高校159人、特別支援学校205人で、合わせて2,065人に上った。不足の生じた学校は計1,591校で、全体の4.8%に当たる。学校現場への影響をみると、小学校で学級担任が不足するケースが474件発生。教務主任らが代わりを務めたケースが205件、校長などの管理職も53件あった。また、中学校16校、高校5校では、教科担任が不足。家庭科や数学など必要な授業ができない状況があったが、7月には全て解消した。教員不足の理由としては、多くの自治体が、産休・育休取得者や病気休職者の増加、特別支援学級が増えていることを挙げた。

② 政府は教員免許更新制に関する規定を削除した教育職員免許法などの改正案を国会に提出した。施行日を7月1日とし、法案が成立すれば、この日以降に期限を迎える教員は更新講習の受講などの手続きが不要になる。更新制をめぐっては、昨年11月、中央教育審議会が免許更新制廃止を盛り込んだ報告書をまとめ、末松信介文部科学相に提出した。報告書では、更新制について、デジタル化などの急激な社会変化に対応するためには10年に1度とする現在の制度では成果が限定的で不十分であるなどとし、「発展的に解消することが適当」と指摘。一方、教員が主体的、継続的に学び続けることは重要だとして、新たな研修制度の創設を求めた。具体的には、教育委員会が教員ごとの研修履歴をデータベース化する

などして管理。教員が個々のニーズや現場の実態に応じた研修を受けられる仕組みづくりを求めた。また、校長が研修の受講を奨励することを義務化。研修を受けない教員には職務命令として研修を受講させることも必要であるとして、命令に従わない場合は職務命令違反による懲戒処分の対象になり得るとした。改正案にはこうした新たな研修制度の規定も盛り込み、23年度からの開始を目指す。



BOOKSHELF

自著紹介



A5判/242pp.
定価2,420円(税込)
ISBN:978-4469246506
2021年

『英語教師がおさえたいことばの基礎的知識』

白畑知彦 著

ことばに関する基礎的で広範囲の知識を身につけたい

英語の教師として独り立ちしていくためには、その過程でさまざまな知識や技能を身につけていく必要があるでしょう。本書は、英語の教師として納得のいく授業をするためには、自身の英語能力を身につけていくこと、教え方を工夫していくことに加えて、「ことばに関する基礎的で広範囲にわたる知識が必要なのでは」という思いから執筆に至りました。3部構成となっています。第1部「ことばに関する基礎的知識」では、私たちが普段無意識に使用している「ことば」全般について考察します。世界の言語、現代英語の特徴、英語の歴史、英語の音声などを扱っています。第2部「ことばの習得に関する基礎的知識」では、ことばを習得するとはどういうことなのか考察します。母語の獲得過程、第二言語の習得過程、外国語学習と脳の働きなどについて扱います。第3部「教室での第二言語習得の基礎的知識」では、筆者の考える教室での第二言語習得モデルを提示し、外国語学習に関連する諸項目について論じています。

全編やさしい解説を心がけました。授業の参考になれば幸いです。(静岡大学教授 白畑知彦)

自著紹介



四六判/256pp.
定価2,200円(税込)
ISBN:978-4469246513
2021年

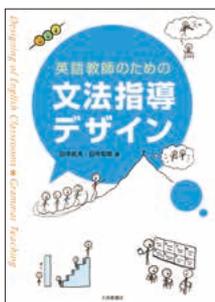
『言語活動がアクティブ・ラーナーを育てる 生徒の英語であふれる授業』

萩野俊哉 著

生き生きとして、「学び」のある授業を行うためのヒントが満載！

皆さんは英語の授業でどれくらい生徒に英語を使わせていますか。そして、その英語を使わせる活動の中で、どれくらい「生徒が何を学び何ができるようになるか」を意識しておられますか。本書は、生き生きとした英語コミュニケーション活動としての言語活動が、先生方の英語の授業を生徒の英語であふれるものにしてくれるということ、そして、そのような授業の積み重ねが、生徒を自律的で主体的なアクティブ・ラーナーへと育ててくれるということ、理論的背景を伴った豊富な実践例で示したものです。

英語教師としての経験がまだ浅い方々はもちろんのこと、御自分の英語授業の見直しや改善に日々心を砕く先生方に、ぜひ手にとってお読みいただきたい書籍です。英語教師のプロとして、どうせやるなら自分がやって楽しい授業をやりたい、そして生徒も十分な「学び」をもって楽しめる授業を行いたい。そんな皆さんをきっと(もっと)元気にしてくれる書籍であると信じています。
(新潟県中越高等学校講師 萩野俊哉)

再読
この1冊

A5判/264pp.
定価2,420円(税込)
ISBN:978-4469245882
2014年

英語教師のための文法指導デザイン

田中武夫・田中知聡 著

文法運用能力を育てる指導

どんな指導をすれば生徒たちが文法を自由に使いこなせるようになるのだろうか。文法規則をよりわかりやすく説明する技を紹介する本や動画も多くなってきたし、フォーカス・オン・フォームなど華やかな名前の文法指導を耳にする機会も増えている。しかしながら、実際の授業にこれらの新しい文法指導をうまく取り込むにはさまざまな障害があって、結局、昔ながらの文法解説と無味乾燥なドリルに頼った文法指導に陥ってしまうことが多いのかもしれない。

そんな悩みを持つ先生方にぜひご一読いただきたいのが本書である。本書が紹介するのは、導入、説明、練習、活動とどれも新しいものではなく、昔から実践されてきたものである。その「普通」の指導を一貫したものとして結びつけることが肝であることを本書は教えてくれる。「何だろう?」、「なるほど」、「できそう!」、そして「できた!」という思いを生徒たちに抱かせることができれば、文法力は自然と育つ。そのことを第二言語習得理論に基づきながら実践的に教えてくれる貴重な一冊である。
(東北学院大学教授 村野井 仁)



「総合的な**探究**の時間」の授業づくりは

ACTUAL

大修館 探究オンライン **アクチュアル**



ICT活用、**端末**で学べる

明日から取り組める!

評価規準例付きの**授業展開案**

▶ 単元例をご紹介します

「SDGsを自分ごと化する」「日本の子育て家庭の課題」「被災地を支援する」……

価格は生徒**1IDにつき1,100円**(税込/年間)

※ ID 100以下の場合 ID 101以上は個別相談



申込み
受付中

最新情報や **メルマガ登録・デモアカウント発行**

大修館書店 教科書・教材サイト「探究活動」
<https://www.taishukan.co.jp/tankyu/>



動作環境 *OS・ブラウザとも最新版推奨

・OS=Windows10・11/ChromeOS/iPadOS ・ブラウザ=Edge/Chrome/Safari

【開発・運営】

大修館書店 デジタル事業開発部

TEL 03-3868-2603 inquiry_dr@taishukan.co.jp

【販売総代理店】

紀伊國屋書店 学校教育ICT推進センター

TEL 03-5719-2501 school@kinokuniya.co.jp

大修館英語通信 What's New!

2022年4月15日発行 第3号

編集人：『大修館英語通信 What's New!』編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島 2-1-1

電話(03)3868-2292(編集部) / (03)3868-2651(販売部)

[出版情報 URL] <https://www.taishukan.co.jp>

[振替] 00190-7-40504

表紙・本文デザイン：CCK

表紙イラスト：オザワミカ

写真：河西 遼

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社